

はじめよう、家族と自然にやさしい暮らし

# ecomom

エコ맘 2007年12月号 <http://www.nikkeibp.co.jp/ecomom/>

## 手を加え、使い続ける 楽しみ

ココロに残る  
クリスマス 2007



日経BP社

# 冬ものの衣類を長持ちさせるコツ

大切な衣類を長持ちさせるには、日々のお手入れが大切です。  
洗濯やクリーニングをしなくても、衣類を清潔に着ることができる  
毎日のお手入れ方法を紹介します。

取材・文 | 小口ちひろ イラスト | 西島尚美  
取材協力 | ハンガーのながしお <http://www.rakuten.ne.jp/gold/nagashio/>



監修 | ザ・クイーンズ・  
フィッシングスクール校長  
佐藤よし子さん

英国ザ・イーストボーン・カ  
レッジに留学し、英国流のハ  
ウスキーピング全般を学ぶ。  
現在は「ザ・クイーンズ・フ  
ィッシングスクール」で教  
壇に立つかわら、テレビ・  
雑誌などでも活躍中。  
<http://www.qfskobe.jp/>

## 長持ちさせる4つのポイント

- 帰宅後のブラッシング
- 風を通して、湿気を取る
- 衣類に合ったハンガーを選ぶ
- 素材に合わせた収納をする

「冬もの」こそ  
日々のお手入れで  
長持ちさせて

大切な衣類のお手入れ、みなさんはどうしていますか？「脱いだら洗濯」「上質なものはドライクリーニング」という人も多いのではないのでしょうか。

「コートやジャケット、セーターなどの冬ものの衣類は、ドライクリーニングの回数を控えた方が長持ちします。洗剤やクリーニングの溶剤が布の繊維を傷め、型崩れの原因にもなるからです」と言うのは、英国流の家事術に詳しい佐藤よし子先生。その代わり必要なのが、ブラッシングや風通しなどのこまめな手入れです。

「毎日ホコリを払い、湿気を取り除いていけば、ガンコな汚れに発展することはありません。もし汚れたら、ベンゼンなどを染み込ませた布でやさしく拭き落とします。実は英国では、日本ほどクリーニングを利用しないですよ。また、お手入れや管理がしやすいように良質なものを少なく持つのもポイントです」

コートやジャケットなどの冬ものの衣類は、まさに日々のお手入れで寿命が伸びるアイテム。正しいブラッシングと風通し、ボタンを外して手入れ・保管するなど、基本をマスターし、大切な衣類を長持ちさせましょう。

# 基本のお手入れ

「ブラッシング」「風通し」「正しい収納」  
これだけで、衣類がグンと長持ちします。  
暮らしにプラスしたいひと手間です。

## ブラッシングのコツ



襟を立て、襟、肩、胸、袖、ポケット、裾の順に布目に沿ってブラッシング。

特にホコリがたまりやすい襟の裏や、ポケットの裏地、脇の下、袖口は重点的にブラッシング。

コートやスカート、ズボンの裾は、特に汚れやすい部分。泥はねなどがついていないか確認を。

## 帰宅したらまずはブラッシング

ブラッシングの目的は、ホコリを払うことと、布の繊維を整えることです。布の風合いは繊維を整えるだけで「持ち」が違ってきます。また、布は着ているときは湿気を吸い、脱いだら吐き出しています。表面にホコリがあると、その呼吸がうまくできず、ツヤや風合いがなくなってしまうのです。そのため、帰宅後はホコリを払い、布が呼吸できる状態に戻す習慣をつけること。ブラシをかける手順は「上から下へ」「こする」のではなく、「払い飛ばす」ようにして最初に軽く洋服をブラシでたたいておくと、布の奥に入り込んだホコリも取り除きやすくなります。

## ブラシの種類と選び方

洋服ブラシには、天然素材と人工素材があります。天然素材はしなやかで静電気が起きにくいのが特徴。ほかに、粘着テープやエチケットブラシなどがありますが、これらは表面についたホコリや髪の毛を取り除くためのもの。繊維に入り込んだホコリまでは取れないので使い分けを。

- 馬毛** しなやかさと、キメ細やかな毛質が特徴。カシミアやシルク、和服などのデリケートな素材に適しています。
- 豚毛** ハリとコシのある毛質が特徴。ウールや綿、麻など幅広い布に適しています。
- 人工毛** 手頃な値段が最大の特徴。静電気が起きやすいので、余計なホコリが集まる心配も。

## すぐにしまわず 風を通して湿気対策

ブラッシングの後は、風通しのよい日陰で、半日〜1日ほど風を通して湿気を取り除きます。風通しの目的はカビ対策。「風通しは、除湿剤を使うよりずっと効果的です」(佐藤先生)。タンスに余計な湿気を持ち込まないためにも、風通しは必ず行うようにしましょう。また、クリーニングから戻った衣類も、カバーの中に湿気がこもっているため、必ずカバーを外し風

通ししてから収納します。風通しに適した場所は「水まわりから離れた」「南側」。直射日光が当たると日焼けして衣類が変色する恐れがあるので、陰干しが基本です。毎日の風通しのほかに、梅雨明け時期や、乾燥した時期(10〜11月、1〜2月)に「虫干し」をするときより安心。晴天が2〜3日続いた日の午前10時〜午後2時窓や扉を開けて行いましょう。



## 英国流「洗わずお手入れ」に学ぶ

英国人は、流行を追うより、ベーシックで自分に似合う洋服を好みます。Tシャツなどは買い替えますが、スーツやコートは上質なものを何年も着続けるようです。中には、おばあちゃんが若い頃に着たコートを、孫用に仕立て直す人も。ものと一緒に、愛情や歴史が受け継がれているんですね。基本のお手入れはブラッシングと部分洗い。よほど汚れない限り、丸洗いはしません。小学校に入学する頃、コートをハンガーにかけることやブラッシングの仕方を男の子はお父さんから、女の子はお母さんから教わります。

## ecomom サイト連動企画 「ホームクリーニング基本テク」

ブラッシングでは落ちなかった汚れを家庭で落とす洗濯テクニックを紹介!  
<http://www.nikkeibp.co.jp/ecomom/>